

「企画・評価部」年間活動報告

システムデザイン学部・教授 守屋 正
都市環境学部・准教授 篠田 雅人

企画・評価部は、授業評価体制の整備と実施、FD推進室・教授支援室の整備と教育情報提供サービスの提供試行の役割を担っているが、本年度は前者の授業評価体制の整備と実施を中心に活動を展開した。以下、時間順に活動内容を記す。

前 期

- 平成 17 年 7 月 11 日（月）～8 月 1 日（月）に「都市教養プログラム」に対する学生の授業評価（SE）を実施した。目的は、教育の現状を把握し、今後の教育改善に役立てるためである。実施時期は、原則として、試験実施の前週の授業時間とした。対象科目は、前期開講の都市教養プログラムの全科目（非常勤講師科目を含む）とした。ただし、現場体験型インターンシップは除いた。対象となった履修申請者合計は 6878 名で、そのうち 3802 名（55.3%）についてアンケートを回収した。回収授業数は 61 科目中 56 科目（91.8%）であった。
- 学生の授業評価と同時期に同科目を対象に、教員による授業評価も実施した。回収教員数は 86 名中 81 名（94.2%）であった。
- 平成 17 年 7 月 11 日（月）～8 月 2 日（火）に「基礎教育に関するアンケート調査」を実施した。対象者は首都大学東京の 1 年生であった。提出先は、南大沢キャンパス 1 号館教務課前および 6 号館 1 F のアンケート回収箱とした。回収率は首都大学 1 年生の 1630 名のうち 628 名（38.5%）で、基礎教育に関心の高い学生を中心に回答が得られたものと考えられる。
- 学生の授業評価の自由記述の分析について、キーワード確認作業と基礎データの解釈を行った。基礎データの解釈については、他大学の類似の学生評価やこれまでの都立大における評価との比較検討を行った。
- 前期に引き続いて、平成 18 年 1 月 13 日（金）～1 月 27 日（金）に「都市教養プログラム」に対する学生の授業評価を行った。対象科目は、前期と同様の都市教養プログラムの全科目（非常勤講師科目を含む）とした。アンケートの内容は、基本的に前期行ったものを踏襲している。前期の授業評価の反省を踏まえ、実施日程の周知を早めに（11 月上旬）行った。
- 学生の授業評価と同時期に同科目を対象に、教員による授業評価も実施した。
- 平成 18 年 1 月 28 日（土）に「実践英語」（日本人担当）に対する学生の授業評価を新しく行った。
- 平成 18 年 1 月 13 日（金）～1 月 27 日（金）に、上記「実践英語」（日本人担当）に対する教員の授業評価を実施した。対象は、すべての常勤および非常勤の教員である。
- 平成 17 年 12 月 9 日（金）～12 月 22 日（木）「全学共通科目」（都市教養科目群と共通基礎教養科目群）に関する学生のアンケート調査を行った。対象者は首都大学東京の 1 年生である。
- 前期に引き続いて、学生の授業評価の自由記述の分析について、キーワード確認作業と基礎データの解釈を行った。

後 期